

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体			
みなみかぜ交流広場事業							
事業目的		事業内容		活動指標	R4	R5	R6
障害者と交流の場を設けることで、区民の障害者に対する理解を深め、区民がともに支えあう地域福祉の充実をめざす。		南区役所1階みなみかぜ交流ひろばにて、障害者支援施設における活動のパネル展示や喫茶の運営、お菓子や小物等の授産製品の販売を行う。		「ギャラリーみなみかぜ」実施事業内容	平日に製品販売・喫茶コーナー、啓発のための展示及びパンフレットの作成	平日に製品販売・喫茶コーナー、啓発のための展示	平日に製品販売・喫茶コーナー、啓発のための展示
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	障害者の理解を深めるための事業として、行政と障害者支援施設が連携を図る必要がある。	○	ひろばを運営している「ギャラリーみなみかぜ」は南区内の障害者支援施設がメンバーとなっている。障害者支援施設と行政が、事業の企画・実施・運営に関し、意見を交えながら実施している。	○	区役所1階の交流ひろばで事業を実施することで、区民にとって開かれた場になっている。喫茶コーナーは区民の憩いの場になっている。	○	製品の販売や喫茶の運営により、自主製品の売り上げは障害者支援施設で働く障害者の工賃となり、就労機会や社会参加の場となっている。交流ひろばでの啓発パネル等の展示や、実際に働く人と接することにより、障害者の生活や活動を知ってもらう機会となっている。
⑤自立発展性		総合評価					
○	運営に関して月1回障害者支援施設が集まり、企画等の会議を行っている。この会議の結果を踏まえ、月1回行政職員と代表者が会議を行い、運営内容を決定している。	○	行政と障害者支援施設が連携し、区役所1階の交流ひろばで製品販売や喫茶、パネル展示を行うことにより、障害者の活動が区民にとって身近な存在となっている。活動を継続して行ってきたことにより、区民の認知度が向上し、障害者や子ども、区民が活動をともにする場として定着してきた。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	今後もみなみかぜ交流ひろば事業を通して、障害者と区民が交流する機会を提供し、障害者理解を促進し啓発活動を行っていく。						